

(報告書様式C)
【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	愛知県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	豊田市立逢妻中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	7	7	1	22	42
生徒数	240	265	268	5	778	

研究の概要

1. 研究主題

<p>意欲的に学び、確かな学力を身につける生徒の育成 - 全教科からアプローチする学力向上の取組 -</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>実施学年 1年から3年まで(特殊を除く) 教科 全教科及び道徳 理由 1 学校規模が大きく職員数も多い本校にとっては、全職員で生徒の意欲を高めていくという意識を盛り上げ、かつ、教師の力量向上のためには、全教科、全学年で取り組むことがよいと考えたため。 2 とくに、問題解決の力や表現力・判断力などの面で学力を幅広くとらえると、限られた教科だけで学力を高めるのではなく、全教科で総合的な学力を高めることが適当だと考えたため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

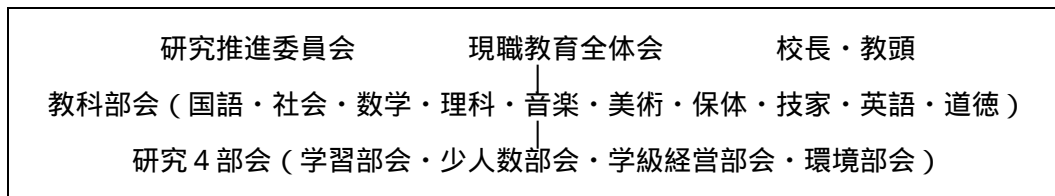
平成14年度	なし
--------	----

平成15年度	<p>テーマ 意欲的に学び、確かな学力を身につける生徒の育成 研究の見通し 「学力」とは何かを明確にし、各教科でその学力をどのように高めるか、授業研究を通して明確にした。 研究の内容・方法 1 全教科、年間2回以上の授業研究を行う。 2 仮説を設定して、各教科で具体的な方策を考えて実践を行う。 3 学力向上のための授業以外の取組の研究と開発をする。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 意欲的に学び、確かな学力を身につける生徒の育成 研究の見通し 授業の創意工夫と、授業以外のさまざまな試みを行い、学力を多面的に向上させ、その検証を行う。 研究の内容・方法 1 時間割の弾力的運用で、学力向上の工夫をする。 2 教材教具の開発と、形成的評価の活用による授業の改善で、多面的な学力を高める。 3 エンカウンターやペア・グループ学習を積極的に活用して、学びを支えるなかまづくりを行い、学力を高める。</p>
--------	---

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

今年度の指導による生徒の変容を調べる調査として、意識調査を実施した。それをもとに考察すると、1学期中旬の意識調査と2学期末の意識調査を（両方とも全く同じ調査方法）比較した結果、これまでの研究成果として次のことが明らかになってきた。

- 1 生徒の学習に対する意欲が高まってきている。
- 2 学習が理解できる生徒が増えてきている。
- 3 少人数指導の成果が上がってきている。

2. 今後の課題

今後の研究の方向は、「2 研究の概要」の「平成16年度の計画」で述べたとおり、今年度行ってきたことをさらに発展させていきたい。そして、学力のいろいろな側面について、その高まりを客観的に検証していくとともに、指導と一体化した評価のあり方について研究を進めていきたい。

学力把握のための学校としての取組

1 標準学力検査	知識理解の定着度を調査する	4月に実施
2 P U P I L	生徒の心の状態を把握する	5月に実施
3 学習意識調査	生徒の学習への意識を調査する	6月と12月に実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究会・説明会 授業研究会開催予定
- * H P 作成 本年度の実績をH16年2月末までに公開予定
- * パンフレット作成 本年度の実績を冊子にしてH16年2月に発行予定
- * フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績又は予定
個人のホームページで、理科に関する研究成果を公開中
ソニー子ども科学教育プログラム等で成果を公表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無